

分析対象文と分析基準

文章分析の大きな特徴は、文学ジャンルが違ってても、文章の文字数がバラバラでも、同じ視点、同じ考え方で、分析値を比較できるところにある。さらには、年代に開きがあっても同じように比較ができる。

論文・評論基準

文学ジャンル全ての基準値として活用している。言葉、表現形態の変化を追う基準になっている。

700文字～2000文字

主に全国紙、ブロック紙の社説を分析し、ターゲットを求めている。毎月全国紙約240社説、ブロック紙約150社説を分析し、月単位で基準値としての変化、文章の構造変化を監視している。僅かな変化が生じた場合、変化の程度を見て、基準値を変更している。言葉は変化するので、基準値は固定できない。3年から5前後で適性化している。

50～99文字

100～199文字

200～299文字

300～399文字

400～499文字

500～699文字

700～1399文字

1400～2000文字

上記、50文字から699文字までの文章基準(6基準がある)は、全国紙、ブロック紙の一般記事を100～150文章を取り出しもとめている。700文字以上は社説から求めている。

※2000文字以上の文章では、小見出しがいくつかついていて、複数のテーマが展開されている場合が多い。そのテーマ単位で分析するため、2000文字以下までの分析基準を用意した。

※50文字未満の文章では、分析不能である。但し、文章の形態(韻文など)では別途の分析方法が使われる。

コラム・エッセイ基準

主に全国紙、ブロック紙のコラム、エッセイを500編を取り出し、基準値を求めた。

小説基準

代表的な純文学の短編250小説を取り出し、ターゲットを求めた。芥川龍之介、菊池寛、川端康成、志賀直哉、有島武郎、太宰治等々の作家を取りだした。

シナリオ基準

30篇程度の分析でターゲットを推定した。ト書きとセ登場人物別のセリフを分析した。通常の文章とは異なり、シナリオには複数の基準が存在する。

職種別人材スタイル基準

リーダー、営業、開発、育成、などの系統で10種について適性値を求めている。他に独立型、思考姿勢など8種が求められている。該当する職種や該当姿勢にあたる人材を各100人以上の文章を分析し、ターゲットを求め、適性理論を加え、基準値とした。

好感度基準

論文、評論、解説文で、読みやすい、分かりやすいを基準にして取りだした文章である。人気のある文章を取り出し、ターゲットを求めた。論文・評論基準で分析し、好感度基準に照らし合わせて測定する。